

# 清流

題字：芳野 充

令和2年3月30日  
第39号

発行所 加来不動産(株)  
発行者 加来 寛  
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに  
静かに  
清流のように

## 怒っていい場面でも穏やかに

ある日、スタッフの入社記念祝いに、二人で街の居酒屋さんに食事に行きました。そのお店はインターネットの評価も上々でしたので、楽しみにしていました。週末と言うこともあり、お店に入ると多くの人でぎわっており、その雰囲気（きんぎ）に押され、腰を下ろすと同時にカウンターで生ビールを二杯注文。

ところが、乾杯のあとのおいしい一口目をグビッと飲み干したとたん、大きな声で怒鳴る声が目の前から飛びこんできました。何ごとかと思うと、繁盛店（はんじょう）の責任者らしき人が、若く新米と思われるスタッフのミスをとがめているようでした。その後も、ミスをしたスタッフへ雑な応対をしているのが、カウンター越しにうかがえました。

入社記念祝いもすっかり興ざめしたわたしたちは、キャンセルできる食事はキャンセルし、飲みかけのビールをあとに店をたちました。

「謙虚（けんきょ）さがなくなる兆候（ちやうこう）」の十二番目は、「目下の人に対して、ぞんざいになる」とあります。「ぞんざい」とは、いい加減な様子、乱暴（らんぼう）な様子とありますが、繁盛店の責任者の態度は、まさに目下の人に対して、ぞんざいだったのではないかと感じました。また、ここで大切なことは、「目上の人」「目下の人」と区別し、「目下の人」であれば感情（げんじやう）をストリートにぶつけてもいいだろう、とする心の働（はたら）きが、すでに謙虚（けんきょ）さを欠いていることになる、ということだと思えます。

『しんどい悩みが一瞬でなくなる！大人の人間関係』（石原壮一郎 著・日本文芸社）という著書に、人から好かれる人、尊敬される人の特徴の一つとして、「怒ってもいい場面でも『穏やかな態度』でいる人」とありました。

ミスをした部下や、いくら言っても言うことを聞かない子どもに対して、「何やってるんだ！」と、ついつい怒ってしまいそうになったり、怒らないにしても、雑（ざつ）な対応をしたくなる気持ちも正直あります。しかし、先の著書の一節（いつせつ）にもあります、怒ってもいい場面でも穏やかな態度でいること。そして同じようなミスをしないうように、冷静に穏やかに接することが結果として、こちらの思いを相手が正しく理解してくれ、かつ尊敬される人になるのだらうと思えます。

目下の人であらうと、いい加減な態度や乱暴な接しかたをしない。たとえ怒ってもいい場面であったとしても、グッとこらえ、穏やかに接することのできる人に近づきたいと思えます。

加来 寛

